



さらに前へ、もっと未来へ。 みんなでつくるインパクトシティののいち

4月23日(日)に行われた野々市市長選挙で当選し、5期目がスタートする栗市長。
今後の取り組みや思い描く野々市市の未来など、まちづくりへの思いを聞きました。

インパクトシティの実現へ 取り組む3本の柱

「いよいよ5期目がスタートしますね。まずは、今期の展望を聞かせてください。」

令和4年4月にスタートした第二次総合計画では、これまで一貫して取り組んできました「市民協働のまちづくり」に「SDGsの推進」と「野々市ファンの拡大」という新たな2つの柱を加え、本市が目指す10年後の将来都市像を「かがやき無限大 みんなでつくる インパクトシティののいち」としました。将来都市像の実現に向け、引き続き、「市民協働のまちづくり」を推し進め、DX※1やGX※2についても具体的な施策を検討していきます。また、子育て環境の充実や中央公園拡張整備事業、それに伴う体育施設の整備にも道筋をつけていきたいと思っています。

※1 DX：デジタルトランスフォーメーションの略。デジタル技術を活用し、業務改善に留まらず、人々の生活をより良いものへと変革すること。

※2 GX：グリーン・トランスフォーメーションの略。化石燃料の使用を減らし、クリーンエネルギーの活用を進めるための変革やそれに向けた活動。

中央公園は「健康」「交流」「防災」をテーマに整備を進めていきたいと考えています。国際優秀つばき園にも認定されており、体育施設の整備と併せて、全ての年代の皆さんに親しまれる公園を目指していきたいと思っています。

市民の皆さんが活躍できる舞台づくりを進め、地域課題の解決に向けた活動の後押しをしていきたいと思っています。

市民協働のまちづくり

「1期目から一貫して「市民協働のまちづくり」を掲げています。どのような思いがありますか。」

行政が全てを主導するのではなく、市民自らが主体となって自由な発想の提案やまちづくりへの参加をいただくことが野々市の元気の源となり魅力につながる。そういう信念を持って「市民協働のまちづくり」を進めてきました。

「まちづくりへの市民参加の現状を踏まえ、今後の取り組みを教えてください。」

現在、にぎわいの里ののいちカミノーには市民活動の拠点となる「市民活動センター」を設置し、登録団体も増え続け60を超える団体に登録いただいています。これからも、

野々市市の魅力と課題

「市長の考える野々市市の強みは何ですか。」

人口が増加している点と、市内に立地する大学とさまざまな分野で連携を行っている点が強みと考えています。また、高齢化に備えたハード・ソフトの環境整備や、地域への誇り・愛着を持ったまちづくりを進めるとともに、文教都市としてのブランド化や情報の発信力を強化することで、さらに本市の魅力を引き出せると考えています。
中央公園拡張整備事業について、どのような公園を目指しますか。

ふるさと野々市への誇りと愛着

「土地区画整理事業などが人口増を押し上げています。新たに移り住む市民にも野々市への愛着を持ってもらいたいですね。」

第二次総合計画では、本市に関わる全ての人が「ふるさと野々市」に対する誇りや愛着を感じられるまち、また、住み続けたい、移り住みたい、帰ってきたいと思うまちを目指しています。伝統行事や郷土芸能の保存・

継承に向けた後継者の育成支援、大学との連携による大学生の地域活動への参加など、定住・移住促進に取り組んでいきたいと思っています。

「最後に、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。」

無投票当選ということで、選挙戦での当選よりも責任を重く感じています。無投票であるからこそ、皆さんの声に真摯に向き合い、市政に反映していきたいと思っています。まちづくりの主役は市民の皆さんです。これからも皆さんが元気に活躍し、いつまでも輝き続けられる野々市市を皆さんと共につくってきたいと思っていますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。



毎月、市長のメッセージを市ホームページに掲載しています。



栗 貴章 (あわ たかあき)

昭和35年6月11日生まれ 62歳

プロフィール

日本大学法学部卒業。参議院議員秘書、民間企業を経て、平成3年に石川県議会議員選挙で初当選。平成19年に野々市市長に初当選。令和5年4月の野々市市長選挙で無投票での5期目の当選を果たす。任期は、令和5年6月10日から令和9年6月9日までの4年間。

モットー

政治は人を幸せにすること、光の当たらないところに光を当てること

趣味

街歩きを兼ねたウォーキング

好きな食べ物

餃子



当選証書付与式（4月24日(月)）



職員朝礼での訓示（5月1日(月)）